

全国 保健師長会 だより

就任2年目のあいつつ



全国保健師長会
会長
清田 啓子

日頃から、全国保健師長会にご理解・ご協力いただいております。会員の皆さま、関係者の皆さまに感謝申し上げます。会長就任2年目を迎え、ごあいさつ申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により、会の運営は例年通りの内容を周到に行うことが叶わず、運営会議メンバー間で、常に新たな方法を模索して参りました。ブロック理事や各委員会の皆さまも、コロナ禍での事業実施に、多くの苦労があったことと思いま

も大きかったのは、孤立^{ソリダ}だった。私だけ、私ばかり、そんな気持ちでモチベーションを下げるようになっていたとおっしゃっていました。全国的に長期間続くコロナ対応で、多くの保健師が大変な思いをしているこの時にこそ、保健師同士の絆を大切に、つらい気持ちに共感し、私だけじゃない、みんなも頑張っているんだと感じられる会として、全国保健師長会の活動を進めていきたいと思っています。

全国の保健師が
生き生きと活動できるように



全国保健師長会
副会長
河西 あかね

全国保健師長会副会長の就任に当たりまして、ごあいさつ申し上げます。

世界的な健康危機管理対策案である新型コロナウイルス感染症の対応が1年以上続いていきます。全国の保健師の皆さまは地域の中で最前線に立ち、この新型コロナウイルス感染症の対応に、日々ご尽力いただいていることと思いま

年度開始のごあいさつと 副会長の就任について

す。

皆さまからお力をいただき、どうかこの1年間、会を運営することができました。コロナ禍においても、各ブロックでは研修等をWEB開催や資料送付など、さまざまな工夫により実施いただきました。調査・研究では「新型コロナウイルス感染症における保健師活動についての調査」と「自治体保健師の活動内容の実態把握に向けた調査」保健師活動領域調査（活動調査）の活動項目区分に関する調査事業」を、多くの会員の調査協力を得てまとめることができました。

また、厚生労働省や関係団体開催の会議やイベント、書籍への文書提供においては、新型コロナウイルスに関する事案が加わることにより、例年よりも多くの出務や

す。心から感謝申し上げます。これまで誰も経験したことのない「災害」といえる状況の下、心身に緊張する中で、長期間働き続けていくということ、私たち保健師自身も、まずしっかりと自覚しておく必要があると感じています。

一方で、この感染症に係る取り組みを通して、これまで地域の生活を守ってきた公衆衛生行政や保健師の活動を、改めて関係機関や住民の皆さまに伝える機会ともなっていると思います。また、この感染拡大の影で、生活基盤の脆弱性や人々の孤立による、健康格差の拡大や精神保健、差別意識の広がり等の課題が深刻化している面も否めません。そしてこの間、事業者や感染者への罰則などを盛り込んだ、特別措置法や感染症法の改正が施行されましたが、保健師としては、引き続き、人権を尊重し、人々や関係機関との信頼関係を築きながら丁寧な個別対応、施設対応を行い、自ら納得して予防行動が取れるよう支援していくことが重要であると思います。私たち行政に働く保健師の役割は、所属部署の方針を踏まえながら公衆衛生看護活動を実践し、住

執筆の依頼が当会にありました。役員の皆さまには、さまざまな場面で保健師の立場からの意見や思いを発信していただきました。皆さまのご協力に、心から感謝申し上げます。

今年度も、コロナ禍での我慢が伴う事業実施が余儀なくされますが、その一方で、コロナ禍においても発展のある活動を展開し、ピンチをチャンスに変えていけるような活動の転換が必要になると思います。WEBの活用により、より多くの人とつながり、ICTを活用し、より個別に合った情報を提供するなど、保健師活動も世の中の変化に合わせて住民の生活に寄り添っていくことが求められると思います。このような変化を、当会も応援していきます。

民や関係機関と共に健康なまちづくりを推進していくことであり、これは新型コロナウイルス感染症対策においても同じと考えます。

全国の保健師同士がさまざまな取り組みを共有し学び合い、公衆衛生看護活動や人材育成の取り組みを着実に推進できるよう、そして保健師として誇りを持ち、生き生きと活動できるよう、副会長として微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひします。

保健師のつながりと
交流の深化のために



全国保健師長会
副会長
前田 香

感染拡大が続いている新型コロナウイルスへの対策に日々尽力されている保健師の皆さまに敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。令和3年度、全国保健師長会副会長に就任いたしました、福島県相双保健福祉事務所の前田でございます。謹んで、皆さまにごあいさつ申し上げます。

副会長就任に当たり

「保健師同士の絆を大切に」
それでも前を向いて進むために



全国保健師長会
副会長
西本 美和

昨年度は新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し、全国保健師長会の活動もこれまでとは一変し、手探りの中、運営してきました。昨年度、本会が会員対象に実施した「新型コロナウイルス感染症における保健師活動についての調査」では、業務の偏在と全庁的に対応する仕組みづくりに苦慮しているといった声が多く聞かれました。またメンタル面の課題として、「最近1か月間、気分が落ち込んだり憂鬱^{ウツ}な気持ちになったりする」と回答した保健師は25・7%、感染症対策部門では32・1%でした。長期間に及ぶ感染症対応で心身共に疲れている保健師の姿が見えてきました。

先日、日本公衆衛生看護学会シンポジウムで千葉大学宮崎先生が、「東日本大震災の時、保健師のモチベーションを下げる要因で最も私が勤務している事務所は、東日本大震災および原発事故により甚大な被害のあった地域を管轄しており、震災および原発事故から10年を経過した現在でも避難指示が解除されない地域が残り、多くの方々が避難生活の継続を余儀なくされております。また、解除された地域においてはさまざまな課題に直面しております。

わが国では、毎年、各地で自然災害が発生し、新興・再興感染症への対策なども加わり、新たな健康課題が増える中、保健師には、地域の特性に応じた専門性の高い活動がますます求められていることから、全国の保健師が横のつながりを持ち、交流を深めながら活動を推進していく必要があると思えます。

今回、副会長という大役を仰せ付けられました。会長をはじめ、それぞれの役員の方々と共に、諸先輩の方々が築いてこられた活動を継承し、社会の動向を見据え、かつ現場の保健師が抱える課題や思いに耳を傾け、保健師が生き生きと活動できるよう尽力したいと考えております。今後とも、ご指導、ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。